

# 山梨県作業療法士会ニュース



## やまなし

第 93 号 2016 年 12 月 14 日 (年 3 回発行)

### もくじ

- 1p 日本作業療法士協会 設立 50 周年記念事業
- 3p 山梨県リハ専門職団体協議会 災害対策準備委員会
- 4p 在宅での作業療法の現場から ~訪問リハビリ~
- 5p 認知症ウォーキングスタンプラリー
- 6p 山梨県精神科病院協会作業療法士部会の活動を通して思うこと
- 7p 理事会だより 8p 各種申請書変更のお知らせ ・編集後記

### 日本作業療法士協会 設立 50 周年記念事業 関連事業を行って 地域リハビリテーション委員会



日本作業療法士協会は、平成 28 年 9 月 25 日に設立 50 周年を迎えました。50 年という長きに渡り活躍されてきた先輩方には本当に頭が下がります。協会でも記念事業が開催されましたが、関連事業として、県士会でも平成 28 年 9 月 18 日に甲府駅南口・北口・ペデストリアンデッキ・よっちゃばれ広場にて一般市民に向けて作業療法の広報啓発活動を行いました。

この事業は、地域リハビリテーション委員会が、これまで地域住民に対して行ってきた困りごと相談会を拡大する形で企画・運営を行いました。今回は、記念事業であったため、OT を PR する記念品としてポケットティッシュやメモ帳を作成しました。複数の委員会にも協力をお願いし、県士会を挙げて取り組みました。認知症対策推進委員会には、認知症の困りごと相談への対応と認知症に関するパンフレットの作成、福祉用具委員会には、自助具の作成・展示、



記念品のティッシュ(左)とメモ帳(右)



記念品と OT 資料の配布風景

福祉用具に関する相談対応を行って頂き、作業療法の専門性のアピールを試みました。当日は、山本会長を始め、理事や大勢の県士会員の参加のもと盛大にOTをPRすることができました。PR用ティッシュは全て配布でき、手渡す際にも市民と会話する機会がもて、OTをより身近に感じてもらえたのではないかと思います。相談エリアでも腰を下ろして話して下さる方もいました。

これからは地域住民との繋がりが大切な時代になります。地域リハ委員会では、県士会と共にこれからも地域住民との関わりを大切に、心身機能・活動・参加・環境を支援する専門職として活動していきたいと思ひます。



福祉用具と説明書の展示風景



認知症に関するパンフレット

地域リハビリテーション委員会では、“地域住民から生活における困りごとについて相談を受け、作業療法士を身近に感じてもらいたい”という思いから、甲府駅にて相談会を実施してきました。

相談会を通じて学んだことを、第50回日本作業療法学会において「飛び出せ地域へ～フリーマーケットで相談会やっちゃいました～」という演題で報告させて頂きました。発表当日は、会場内に立ち見の人が出るほど大勢の方々に聞いてもらうことができ関心の高さが伺えました。また、発表後には同様の活動を行っているという他県の作業療法士と情報交換することができ有意義な時間となりました。座長の先生からは、作業療法士が地域に興味はあっても出ていけない、どうやって地域に出ていけば良いかわからないという現状がある中で、作業療法士への啓発になる発表だった。前例の少ないとても良い活動だと思うので今後も続けていって欲しいというお言葉を頂きました。



今後は、山梨県作業療法士会の他委員会と協力し相談会の内容を充実させると共に、作業療法の啓発活動にも力を入れ継続していきたいと思ひます。

## 山梨県リハビリテーション専門職団体協議会災害対策準備委員会研修会報告

山梨県リハビリテーション専門職団体協議会災害対策準備委員会 担当 磯野弘司

平成 28 年 9 月 6 日に開催されました「山梨県リハビリテーション専門職団体協議会災害対策準備委員会研修会」の報告をさせていただきます。

山梨県リハビリテーション専門職団体協議会災害対策準備委員会（山梨県理学療法士会、山梨県作業療法士会、山梨県言語聴覚士会）では年に一度、研修会を開催しています。今回はテーマを「災害時におけるリハビリテーション支援」とし、大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会（JRAT）代表の栗原正紀先生（長崎リハビリテーション病院理事長）に「災害リハビリテーション支援活動」についてご講演を戴きました。講演に先立ちまして災害リハビリテーションコーディネーターの佐藤吉沖先生（山梨リハビリテーション病院）より山梨県災害リハビリテーション支援関連団体協議会（山梨 JRAT）の設立に向けての趣旨説明および経過報告をしていただきました。栗原先生のご講演では今年発生した熊本地震の報告もしていただき、先生自身、熊本地震についての講演は今回が最初であるとお話しされていました。非常に貴重な情報も多く、実践的な災害支援に向けての心構えについても、いろいろとお話しいただきました。

研修会終了後にご記入いただいたアンケートでは、研修会前は「災害リハについて関心がある」が 35%でしたが、研修会終了後には「災害リハの知識が深まった」が 60%、「今後も災害リハ研修会に参加したい」が 90%を超える結果が得られ、多くの参加者より災害リハについて興味を持っていただけました。「JRAT の概要を中心に東日本大震災や熊本地震での JRAT の取り組みについて理解する良い機会となった。」という感想を多く戴きました。今後は被災地でのリハ専門職の役割や個別ケースの対応、また災害コミュニケーションについてなどの内容を勉強してみたいとの要望が聴かれたため、定期的な研修会開催の必要性を実感しております。参加者の災害リハに対する認識も高いため、今後は講演会だけでなくより実践的な研修会も開催していきたいと考えております。

また、山梨 JRAT 設立に向けましては、現在、山梨県リハビリテーション病院・施設協議会、山梨県介護支援専門員協会、山梨県理学療法士会、山梨県作業療法士会、山梨県言語聴覚士会の 5 団体を中心に設立に向けた準備を進めています。設立の際には会員の皆様にも再度、詳細につきましてお知らせしたいと考えています。是非とも関心を持っていただき、活動の際にはご協力いただけたらと思います。今後ともよろしくお願いいたします。



JRAT 代表 栗原正紀先生



佐藤吉沖先生

## 在宅での作業療法の現場から～訪問リハビリ編～

### 『訪問リハビリテーションを通じて感じた家族の存在』

一宮温泉病院 訪問リハビリテーション事業所 保坂圭亮

一宮温泉病院は石和温泉郷に隣接した、自然豊かな場所にあります。病院周辺には10万坪の広さを持つ森林公園があり、散歩コースとなっています。

当院は人間ドック、訪問看護、訪問リハビリテーション等の予防から在宅医療までをサポートする機能を有し、リハビリテーション部は回復期病棟46床、一般病棟77床（うち、地域包括ケア病棟を10月より開始）、外来診療部門、私の所属している訪問リハビリテーション事業所を有しています。

訪問リハビリテーション事業所は、現在PT2名、OT2名（うち、非常勤1名）が所属しています。主に笛吹市、山梨市、甲州市を訪問エリアとし、平成24年度より試験的に大月市、都留市への訪問リハビリを実施しています。住み慣れた地域環境で、利用者様及び御家族が安心し、安全に生活が送れるよう日々業務に励んでいます。

私は当院へ入職し回復期病棟で3年間臨床経験を積み4年目に訪問リハビリテーション事業所へ移動となりました。回復期病棟勤務時は病院内で基本的動作・ADLが可能であれば、「退院しても自宅では何不自由なく生活出来るだろう」と考えていました。しかし、担当した患者様が退院した後、患者様とご家族が無事に生活できているだろうかということは常日頃気になっていました。

現在訪問リハビリテーションに携わり6年が経過し、業務を通して感じたことは、一つに『実際の生活場面』へのアプローチができること。二つに『家族』の存在が必要不可欠だということです。現在の機能に対し維持向上を図り、ADL・IADLの実用性を意識し、病前の生活に近づけるようにどのような手段なら危険がないかを段階的に探り出すよう心がけています。

実際担当させて頂いたAさんは夫と息子との3人暮らし。脳血管障害にて左片麻痺を呈した状態ですがADLは何とか自立レベルまで回復し自宅復帰をされました。Aさんは自分の役割でもある調理を病前のように行いたいと思っていましたが、うまくできていない現状がありました。夫はAさんが元気な姿で生活しているため、何でもできるものだと思っていたそうです。しかし、Aさんは陰では試行錯誤し、調理をこなしていました。私はその状況を知り、安全かつ効率の良い方法はないかを考え、夫に協力を依頼し円滑に調理をするために釘付きまな板の使用の提案をしました。そして、今後も続く家族との生活を無理のないものにするために、リスクの説明（素材による危険性や包丁の使い方、固定の必要性）を行い、釘付きまな板の制作を依頼しました。夫はそれ以後かぼちゃなど硬いものは切っておいてくれるようになりました。



在宅生活においては一人一人に役割があり、特に女性の場合はIADLが可能か不可能かで意欲にも影響します。私は現在～未来に起こりうる在宅生活をどのように過ごすのかを考え、関わっていけたらと思っています。

認知症対策推進委員会 活動報告

『認知症ウォーキングスタンプラリー大会』

甲州通所リハビリテーション

片田 勇太郎

皆さん初めまして、認知症対策推進委員会の片田です。

当委員会は発足当初より『地域に向けた活動』をテーマに掲げ多彩な活動に挑戦し続けています。今年度の目標は『認知症ウォーキングスタンプラリー大会』の実現であり、平成 28 年 10 月 16 日、金川の森にて開催する事ができましたので報告させていただきます。

本大会のコンセプトは『認知症に興味を持つ方を増やせる』『認知症の人を支える輪を広げられる』『当事者や家族が参加できる場を作る』、であり OT 士会に加え『笛吹市役所』『家族会』『福祉事業所』『甲斐けん玉クルー』『アロマセラピー』『アニマルセラピー』『スターバックスコーヒー』『キャラバンメイト』との夢のコラボレーションの元、実現が可能となりました。

当日は晴天に恵まれ、一般の方から当事者、医療福祉従事者等、老若男女総勢 250 名を超える参加者が集い、朝から非常に活気づいた大会となりました。また、当事者を含む多くの参加者が各種体験ブースを通し、楽しみながら認知症について興味を持ち、意欲的に学んでくれた事が非常に印象的です。

私自身も各種ブースの中で地域の方々と密に触れ合う事ができ、楽しみながらも大会コンセプトを体感し、『地域に向けた活動』を実現できたと感じております。

今後も認知症対策推進委員会の活動に注目して頂ければと思います。

『大会会場の様子』



『キャラバンメイト認知症クイズ』



『甲斐けん玉クルーけん玉ショー』



『運営スタッフ全員集合』



## 山梨県精神科病院協会作業療法士部会の活動を通して思うこと

山梨県精神科病院協会  
作業療法士部会事務局  
HANAZONO ホスピタル 真壁陽子

山梨県精神科病院協会作業療法士部会（以下、山精協OT部会）は、山精協に所属している県内民間精神科病院 9 施設の作業療法士で組織され、山梨県からの補助金をもとに活動しています。会員から希望を募り、年間計画を立て、情報交換や研修会、施設見学などを実施しています。また、県内の精神科作業療法の質の向上を図るべく、山精協会員以外の作業療法士の方にも参加していただいています。

今年度は既に 4 回開催し、HANAZONO ホスピタルのグループホーム“わだふぁみりあ”や県立北病院の見学、各施設での一推し Activity の紹介などを行いました。

Activity 紹介は、各施設や作業療法士個人の個性や特徴が垣間見られ、実際の治療場面が目に見えてくるようでした（勝手な想像ですが…）。種類の作業でも、その治療的応用はセラピスト×対象者様の数だけ広がりを見せます。そしてそこに意味づけや解釈が加わり、一人一人の生活を組み立てるピースになっていきます。作業を通して、バーバル＋ノンバーバルなコミュニケーションが生まれ、人に認められて安心できたり、自信がついたり、明日も頑張ってみようという活力が生まれたり…。作業が持つ不思議なパワーと人との相互作用を利用する作業療法の“ワザ”に、あらためて思いを巡らせることができました。

一日の大半を妄想の世界の中で生き、意思の疎通も ADL もままならず、長年入院されている統合失調症の A 様、家族が相次いで亡くなり生活リズムの乱れから急変、病状悪化し入院に至った統合失調症の B 様、対人ストレスを避けて不登校、引きこもり、家庭内暴力のために家族が困り果て入院に至った発達障害の C 様、BPSD のために施設での対応が困難になり入院してきた認知症の D 様…。各々のニーズにどのように対応していけばよいか??? 日々の悩みは尽きません。厚生労働省は、第 6 次医療計画の中で、従来の 4 疾病に加え、精神疾患を追加し、5 疾病 5 事業として、重点的に対策を進めてきました。長期入院精神障害者の地域移行や、精神病床のさらなる機能分化などを推し進めています。疾患別、回復期別のエビデンスに基づいた入院治療はもちろんのこと、外来部門や地域での予防医学的な支援、クライシスの介入、地域生活への移行期・維持期支援、就労支援等々、作業療法士の役割は益々多岐にわたるようになってきました。ADL・IADL や QOL 向上の為のリハビリテーションから、心理教育・認知リハビリテーション、退院後の福祉サービスとの連携を含めた包括的リハビリテーションまで、あらゆるベクトルでリハビリテーションを展開させていくためのスキルを求められています。

11 月以降、OT 部会では、心理教育や認知リハに関する研修会、認知症カフェの見学を予定しています。ますます複雑・多様化していくニーズに柔軟に対応し、医療の現場でも地域の中でも、作業療法士としての存在感を示していけるよう、OT 部会の活動が、その一助となれば良いなあと思っています。

## 理事会便り

### 一般社団法人山梨県作業療法士会 2016年度 第1回 理事会議事録

日 時：平成 28 年 4 月 13 日(水)

会 場：甲府城南病院 作業療法室

出席者：山本、廣田、古屋、三瀬、長坂、濱田、関谷、松田、磯野、  
佐尾、米山、宮尾、有泉：13名

#### 1. 会長(山本)

1)平成 28 年 4 月 4 日(月)健康科学大学入学式に出席

#### 2. 事務局(三瀬)

1)日本理学療法士協会及び日本作業療法士協会より、平成 27 年度  
地域保健総合推進事業報告を受託

<管理部>

1)会員数 515 名(平成 28 年 4 月 12 日(火)現在)

<福利厚生部>

1) 新人歓迎会での新人の自己紹介を実施することについて →  
承認

#### 3. 社会局(濱田)

<事業部>

1)県士会ピブスについて、当初予算は 40,000 円であったが、30 枚  
カラーで作成すると 64,800 円かかる為追加予算を頂きたい →  
承認

#### 4. 学術局(佐尾・宮尾・有泉)

<生涯教育部>

1)今年度から資料代 500 円を徴収する

#### 5. 常設委員会(米山・松田・関谷)

<生活行為向上マネジメント推進委員会>

1)平成 28 年度から指導者と推進委員、生涯教育基礎研修終了者で  
実践研修終了者のうち県士会推薦者が暫定ファシリテーターとな  
った

### 一般社団法人山梨県作業療法士会 2016年度 第2回 理事会議事録

日 時：平成 28 年 6 月 21 日(火)

会 場：あばれはっちゃく

出席者：山本、廣田、古屋、三瀬、長坂、野上、松田、有泉、関谷、  
磯野、佐尾、濱田、米山、宮尾：14名

#### 1. 会長(山本)

1)山梨県理学療法士会、山梨県作業療法士会、山梨県言語聴覚士会  
の 3 士会合同意見交換会に廣田副会長、古屋副会長、磯野理事と  
出席

#### 2. 事務局(三瀬)

1)日本作業療法士協会より介護保険における福祉用具サービスを  
シームレスに提供する為に必要な方策に関する調査研究事業の報  
告書を受託

<管理部>

1)会員数 469 名(平成 28 年 6 月 15 日(水)現在)

<福利厚生部>

1)平成 28 年 6 月 15 日(水)に行われた新入・転入者歓迎会の参加者  
186 名(新入・転入者は 44 名、来賓 8 名)

#### 3. 学術局(佐尾・有泉・宮尾)

<学術大会運営部>

1)第 9 回山梨県作業療法学会のテーマは、「輪」～生活を未来  
につなげる作業療法～

2)山梨市に名称後援を依頼し、特別講演を一般公開講座として行う

#### 4. 特設委員会(松田・関谷)

<認知症対策推進委員会>

1)甲府市南東地域包括支援センターより講師依頼を受託

### 一般社団法人山梨県作業療法士会 2016年度 第3回 理事会議事録

日 時：平成 28 年 7 月 20 日(水)

会 場：甲府城南病院 作業療法室

出席者：山本、廣田、古屋、三瀬、長坂、磯野、松田、濱田、関谷、  
有泉、宮尾、佐尾、米山、野上、中島、佐田：16名

#### 1. 会長(山本)

1)山梨県介護支援専門員協会、山梨県理学療法士会、山梨県作業療  
法士会、山梨県言語聴覚士会の 4 士会合同意見交換会に廣田副会  
長、三瀬事務局長、磯野理事、久保田好正(会員)と出席

#### 2. 副会長(廣田・古屋)

1)都道府県作業療法士会連絡協議会に廣田副会長が出席

2)平成 28 年 7 月 13 日(水)山梨県地域包括ケア推進協議会に古屋副  
会長が出席

#### 3. 事務局(三瀬)

1)日本作業療法士協会より、認知症作業療法推進委員の推薦依頼を  
受託 → 松田理事を推薦

2)日本作業療法士協会より、50 周年記念式典・祝賀会の案内を受  
託

3)日本作業療法士協会より、50 周年協会機関紙原稿執筆依頼 →  
磯野理事が担当

4)平成 28 年 7 月 13 日(水)中北地域リハビリテーション連絡会へ出  
席

5)山梨県社会福祉協議会より、山梨県介護機器普及事業運営協議会  
委員の推薦依頼を受託 → 山本会長を推薦

<管理部>

1)会員数 547 名(平成 28 年 7 月 20 日(水)現在)

2)県士会員シールに関して再発行は原則行わない

3)各部・委員長長の選出について → 各部・委員会候補者に関して承  
認

<財務部>

1)熊本地震義援金について、県士会から 10 万円、県内施設から  
79,643 円を寄付する

#### 4. 社会局(濱田)

<事業部>

1)平成 28 年度地域リハビリテーション従事者研修会へ実行委員の  
選出を受託 → 浅川愛(山梨リハビリテーション病院)を推薦

#### 5. 特設委員会(松田・関谷・磯野・米山)

<認知症対策推進委員会>

テーマ：県士会員全員サポーター計画！  
～認知症サポーター養成講座～

日 時：平成 28 年 6 月 10 日(金)

会 場：大木記念ホール

講 師：認知症対策推進委員会委員(キャラバンメイト)

参加者：70 名

<生活行為向上マネジメント推進委員会>

テーマ：MTDLP 基礎研修会

日 時：平成 28 年 7 月 10 日(日)

会 場：大木記念ホール

講 師：古屋豊美(山梨厚生病院)

参加者：64 名

## 一般社団法人 山梨県作業療法士会 会員シールの取り扱いについて

入会申請書及び会費の納入が確認された正会員に「会員シール」を発行しております。「会員シール」は、日本作業療法士協会会員証裏面に貼付(下記参照)し、士会主催の学会および研修会等に参加する場合は、必ず提示して下さい。なお、「会員シール」の再発行は行っておりませんので、本証を紛失されないようご注意ください。

### 一般社団法人 山梨県作業療法士会会員手続きについて

#### 入会について(会員の構成)

1. 正会員 一般社団法人日本作業療法士協会の正会員である者で、山梨県内に常勤または在住し、当法人の事業に賛同して入会した個人(作業療法士対象)
  2. 賛助会員 当法人の目的に賛同し、事業を賛助するために入会した個人または団体
  3. 名誉会員 当法人の事業に顕著な功労のあったもの又は学識経験者
- ※いずれも理事会での承認が必要となります。特に賛助会員に関しては、賛助内容を明確に提出して頂き、理事会にて検討させていただきます。詳細につきましては、一般社団法人山梨県作業療法士会定款「第二章 会員」をご覧ください。

#### 会員手続きについて

各種申請書(入会申請書/登録変更届/休会・復会届/退会届)を当士会ホームページからダウンロードして頂き、事務局 管理部まで郵送またはFAXにてご連絡ください。特に、変更届については、変更があり次第ご連絡頂きます様お願いいたします。



#### 連絡・送付先

一般社団法人 山梨県作業療法士会 事務局 管理部  
〒400-0831 山梨県甲府市上町 753-1  
甲府城南病院 リハビリテーション部 作業療法科内  
FAX : 055-241-8660 (代)  
TEL : 055-241-5811 (代)



#### 編集後記

最近、親子連れが羨ましいと思います。新しい家族がほしくなります(浅)  
半年で8kg増量してしまったため減量中。2か月-8kg減量頑張っています(精)  
今回の号から字体など少し変えました!見づらい、読みづらいなどご意見があれば、企画編集部までお願いします(い)  
また寒い時期がやってきました。体調管理頑張っていきます(つ)

発行人: 山本 伸一

編集人: 中島雅人・飯野 知一・角田 幸一・内藤 和也・藤原 浩宣・梶原 由加里・松田 唯・浅川 良太・精進 智規・稲葉 峻太

発行所: 一般社団法人 山梨県作業療法士会 広報局 企画編集部

しらゆり訪問看護ステーション 〒400-0114 山梨県甲斐市万才 287 TEL 055-276-9933

FAX 055-276-9939

印刷所: (株) 島田プロセス 〒409-3867 山梨県中巨摩郡昭和町清水新居 1534 TEL 055-233-8829